

新潟市・黒埼町合併建設計画 (まちづくりビジョン)

目 次

- I 新潟市・黒埼町合併建設計画（まちづくりビジョン）の概要
 - 1 趣旨
 - 2 構成
 - 3 期間

- II 合併の必要性と効果
 - 1 合併の必要性
 - (1) 交通機関の発達と生活圏の一体化
 - (2) 地方分権，高齢化に備えた行財政能力の強化
 - (3) 広域的展開と合併
 - 2 合併の効果
 - (1) 合併の効果
 - (2) 合併の歴史と両市町の一層の発展

- III まちづくりの基本方針
 - 1 新しいまちづくり
 - 2 黒埼町地域の役割
 - 3 黒埼町地域各地区の特性と土地利用の方針

- IV まちづくり計画
 - 1 福祉
 - 2 環境・安全
 - 3 教育・文化
 - 4 産業
 - 5 都市基盤

- V 概算事業費

- VI 財政計画

I 新潟市・黒埼町合併建設計画（まちづくりビジョン）の概要

1 趣 旨

新潟市・黒埼町合併建設計画（まちづくりビジョン）（以下「まちづくりビジョン」という。）は、黒埼町第4次総合計画を継承するとともに、新潟市第4次総合計画を踏まえて、新潟市と黒埼町の合併に伴う黒埼町地域の「まちづくりの基本方針」を定め、総合的な「まちづくり計画」を策定し、これを実現することにより両市町の速やかな一体化を促進し、住民福祉の向上と地域発展を図る、新しいまちづくりの基本的指針となり、具体的な施策の方向を示すものです。

2 構 成

まちづくりビジョンは、

- 「I 新潟市・黒埼町合併建設計画（まちづくりビジョン）の概要」
- 「II 合併の必要性と効果」
- 「III まちづくりの基本方針」
- 「IV まちづくり計画」
- 「V 概算事業費」
- 「VI 財政計画」

で構成しています。

3 期 間

「まちづくりの基本方針」は、長期的展望に立ったものとし、「まちづくり計画」は、平成13年度から平成22年度までの10カ年計画とします。

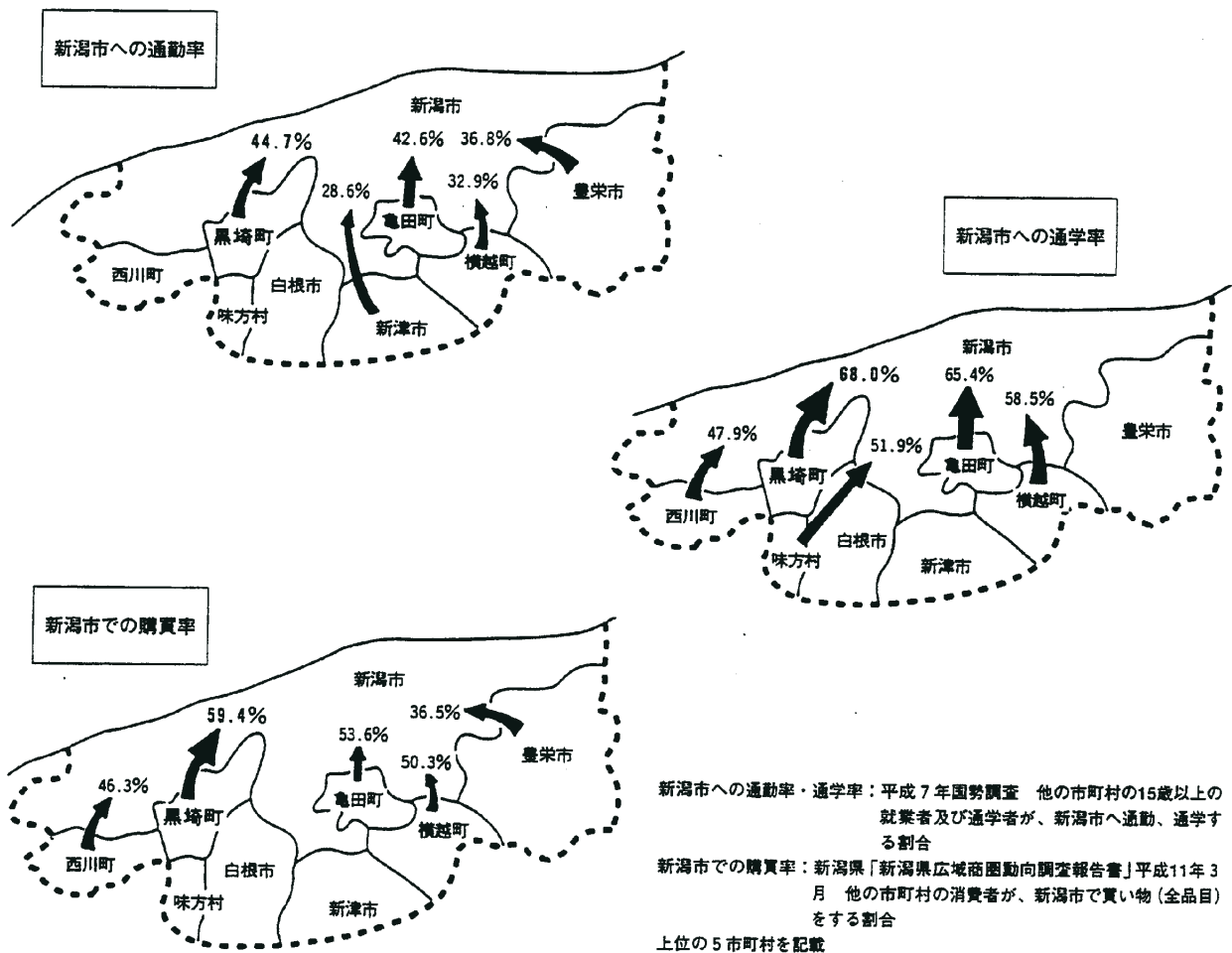
II 合併の必要性と効果

1 合併の必要性

(1) 交通機関の発達と生活圏の一体化

今日の社会経済的な変化、特に交通機関の発達により、人々の生活はそれ以前の時代よりもはるかに広域化しています。その結果、生活圏と行政区域との乖離から種々の問題が生じ、生活圏全体を対象とした一体的・総合的な都市経営が求められています。

中でも、新潟市と黒埼町とは、既に通勤、通学、買い物では周辺市町村の中で最も一体化が進んでおり、生活実感からは既に同じ「まち」ともいえるほどになっています。



(2) 地方分権、高齢化に備えた行財政能力の強化

今後ますます本格化する地方分権を実行する能力、少子化社会の中での介護保険制度に代表される多様な福祉施策の充実等を考えると、自治体として、より一層、行財政能力を向上させ効率的行政を推進する必要があります。そして、合併はそのための有力な手段と考えられています。

(3) 広域的展開と合併

広域行政は、広域市町村圏を単位とした一部事務組合等の広域行政制度を利用することも可能ですが、総合的な行政主体として、意思決定や事業展開をするためには、単一の自治体であることが最適と考えられています。

2 合併の効果

(1) 合併の効果

- ① これまで別々に実施してきた、各種事業の一体的、効率的な整備が可能になります。たとえば、土地利用について、より広い範囲で検討することが可能となり、産業配置や道路、公園、文化・スポーツ施設なども、実際の生活圏に基づく広い視点から一体的、効率的に整備を行うことができます。
- ② 幹線道路など道路網の整備は、合併建設計画に位置づけることで、より一層整備されますし、合併に伴う有利な起債、地方交付税制度を利用して運動公園や保養センターなどの整備を行うことができます。そして、これら道路、公園、保養センターなどは、地域に限らず市民生活全体に寄与するものです。
- ③ 黒埼町地域には、保健・福祉や教育・文化、産業など色々の分野で多くの新規行政制度が適用されますし、建設計画では、合併しない場合の町総合計画よりも多額の投資が行われ、生活基盤の整備がそれだけ早く実現します。

④ 消防・救急、防災体制も合併で大きく変わります。

阪神・淡路大震災等を契機として、消防・救急、防災面の充実の必要性が強く再認識されるようになりました。

消防に関しては、現在、黒埼町は最大で消防車3台の出動体制ですが、合併後は最低8台、最大20台の出動体制に強化されます。(消防団関係を除く)

救急に関しては、現在は救急車2台体制ですが、合併後は複数のステーションの中から一番近くの救急車が駆けつけるようになり、搬送先も市消防局と医療機関のオンライン体制で、いち早く搬送先が決定され、所要時間の短縮が実現します。

万一、大規模な災害が発生した場合も、従来は新潟市と黒埼町で協定を結んだ自治体同士の防災協力であったものが、今後は市の防災体制の中で、より一体的で効果的な対策が行われ、施設面でも、防災無線の整備や耐震性貯水槽(飲料水兼用)の整備などが進みます。

(2) 合併の歴史と両市町の一層の発展

そもそも、新潟市は過去に2町12村と合併し、黒埼町は5村が合併し、それぞれが発展してきた歴史があり、両市町がここに合併を行い共にさらなる発展をめざすことは、歴史の流れにかなうことでもあります。

新潟市は、中核市に指定され、日本海側最大の人口を擁する都市となっていますが、合併を行うことで、さらに活力を増し、名実共に環日本海の中核拠点都市として一層発展したいと考えています。

黒埼町にとっては、合併に伴う多数の新規行政制度の適用や、合併建設計画の実施などによって、合併しない場合よりも速やかに住民福祉の向上と地域発展を実現することができますし、新しい新潟市の一翼を担うことで、より大きな発展が期待できます。

【新潟市と黒埼町の合併史】

新 潟 市		黒 埼 町	
合併年月日	事 項	合併年月日	事 項
明治22年4月1日	関屋村古新田を合併し市制施行	明治22年4月1日	町村制施行
大正3年4月1日	中蒲原郡沼垂町を編入合併	明治34年11月1日	金巻村、板井村、木場村、黒鳥村、鳥原村の5カ村が合併し、黒埼村制を施行
昭和18年6月1日	中蒲原郡大形村を編入合併		
昭和18年12月8日	中蒲原郡石山村、鳥屋野村を編入合併	昭和48年2月1日	黒埼町制を施行
昭和29年4月5日	北蒲原郡松ヶ崎浜村を編入合併	現 在	
昭和29年11月1日	北蒲原郡南浜村、濁川村、西蒲原郡坂井輪村を編入合併		
昭和32年5月3日	中蒲原郡大江山村、曾野木村、両川村を編入合併		
昭和35年1月11日	西蒲原郡内野町を編入合併		
昭和36年6月1日	西蒲原郡中野小屋村、赤塚村を編入合併		
現 在			

Ⅲ まちづくりの基本方針

1 新しいまちづくり

新潟市と黒埼町を含む新潟都市圏は、行政、経済、教育・文化などの諸機能が集積している圏域の特色を活かしながらその機能を強化し、世界に開かれた環日本海の中核拠点圏域として発展することが期待されています。

このような中で新潟市は、県都として、また圏域の中心都市として、県と圏域の発展を先導する都市としての役割を今後とも果していくことが必要であり、経済や教育・文化、保健・福祉など高次都市機能のさらなる集積に努め、将来的には政令指定都市をも展望しつつ「環日本海の中核拠点都市づくり」を進めていきます。

このため、すでに一体的な日常生活圏を形成している新潟市と黒埼町は、合併を行うことで一つの自治体として、より広い範囲で総合的観点に基づく保健・福祉、環境・安全、教育・文化、産業や都市基盤の整備、向上に努め、均衡ある発展を図りながら、環日本海の中核拠点都市としての一体的なまちづくりを行います。

2 黒埼町地域の役割

黒埼町地域は、県都新潟市の南部に位置し、新潟平野の緑豊かな田園の広がり、日本一の河川である信濃川を有し、穀倉地帯として、また、河川交通の要衝として発展してきました。

今後も、恵まれた優良農地を活かし、水稻・枝豆・チューリップなどを主体とする農業地帯として発展が期待されていますが、近年、道路網整備などに伴い住宅地や商業・流通業務拠点としての性格が次第に強くなってきています。

したがって、黒埼町地域の役割は、農業と調和のとれた都市機能を持つ地域拠点であり、また、広域交通の拠点として、環日本海の中核拠点都市を目指す新潟市の陸の玄関口としてふさわしいまちづくりが期待されています。

3 黒埼町地域各地区の特性と土地利用の方針

土地利用に当たっては、地域の社会的、経済的、自然的条件等を配慮しながら、生活環境の確保と均衡ある地域の発展を図ることを基本とし、環日本海の中核拠点都市新潟市の中で農業と調和のとれた都市機能を持つ地域拠点、陸の玄関口としてふさわしいまちづくりをめざし総合的かつ計画的に行うことが必要です。

それぞれの地区の特性と、土地利用の方針は次のとおりです。

【北部地区】

新潟市の中心部に近く、インターチェンジを有し利便性の高いこの地区は、土地区画整理事業による宅地開発などにより急速に市街化が進行したために、道路・公園・下水道などの生活環境の整備が求められています。

したがって、この地区の土地利用は、都市計画用途に整合した土地利用を基本としながら、生活環境の整備を進めるとともに、今後も利便性を生かした土地区画整理事業などでまちづくりを進めます。

さらに広域観光の拠点性の高い「新潟ふるさと村」及びその周辺については、隣接の河川敷公園の整備などを進めることで、商業・観光地としての魅力の増大に努めます。

【中部地区】

東に信濃川とその支流の中ノ口川が流れ、西には北陸自動車道が通っているこの地区は、古くから商業、文化、住宅の集積した、黒埼町の中心として発展してきた地区であり、体育館、図書館などの公共施設も多くありますが、今後は、道路・公園・下水道などの生活環境の整備が求められています。

したがって、この地区の土地利用は、都市計画用途に整合した土地利用を基本としながら、生活環境の整備を進めるとともに、黒埼町地域の中心としての機能の拡充を図り、文化活動拠点の整備などを行います。

【南部地区】

木場・板井・黒鳥などの集落地を中心に、緑豊かな優良農地が広がっているこの地区は、都市近郊型農業地域として農業活性化事業など農業基盤の強化と道路・下水道などの生活環境の整備が望まれており、また、広大な土地を利用した新たなまちづくりへの期待も大きなものがあります。

したがって、この地区の土地利用は、農業を基本とし農業基盤の強化を図るとともに、生活環境の整備に努め、さらに、新潟大外環状線の整備と（構想）黒埼南インターチェンジの設置を促進し、これらを核として農業、環境との調和を図りつつ、新たなまちづくりを推進します。

また、流通センター周辺は流通関連企業の進出が著しく、より一層の機能拡充が望まれているため、農業、環境との調和を図りながら土地区画整理事業などによる市街地の拡大を図り、流通関連機能の拡充に努めるとともに、貴重な温泉資源を活用した保養・レクリエーション機能の拡充に努めます。

